

# 大学病院



- ・ 医学部附属病院 小倉 真治 高次救命治療センター長が 令和5年度救急医療功労者 厚生労働大臣表彰を受賞
- ・ 肝硬変患者における外的刺激に対する反応速度と正確性の低下を国際多機関共同 観察研究により証明
- ・ クリスマスツリー点灯式を開催
- ・ 能登半島地震被災地より当院DMATの第1次隊が帰院
- ・ 東海環状・飛騨医療ネットワーク協定締結式を実施
- ・ 国立がん研究センターと教育・研究・医療等の包括的連携協力に関する協定を締結



MAKE NEW STANDARDS.

東海国立  
大学機構



岐阜大学

## 医学部附属病院 小倉 真治 高次救命治療センター長が 令和5年度救急医療功労者厚生労働大臣表彰を受賞

### 【概要】

令和5年度の救急医療功労者厚生労働大臣表彰の受賞者として、医学部附属病院 小倉真治 高次救命治療センター長が選ばれました。本表彰は、厚生労働大臣が、都道府県知事の推薦のもと、長年にわたり地域の救急医療の確保や救急対策の推進に貢献した個人や団体、医療機関の功績を称えるものです。

今回の受賞は、ドクターヘリ事業の立ち上げや院内外における医療連携の強化に尽力するとともに、長年にわたりメディカルコントロール協議会に携わるなど、地域の救急医療の確保及び推進に貢献したことによるものです。

令和5年9月8日（金）には、都道府県会館にて表彰式が行われました。



### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/9/2	岐阜	令和5年度救急医療・産科医療功労者厚生労働大臣表彰 【救急医療・個人】～医学部附属病院 高次救命治療 センター 小倉真治 センター長～

## 肝硬変患者における外的刺激に対する反応速度と正確性の低下を国際多機関共同観察研究により証明

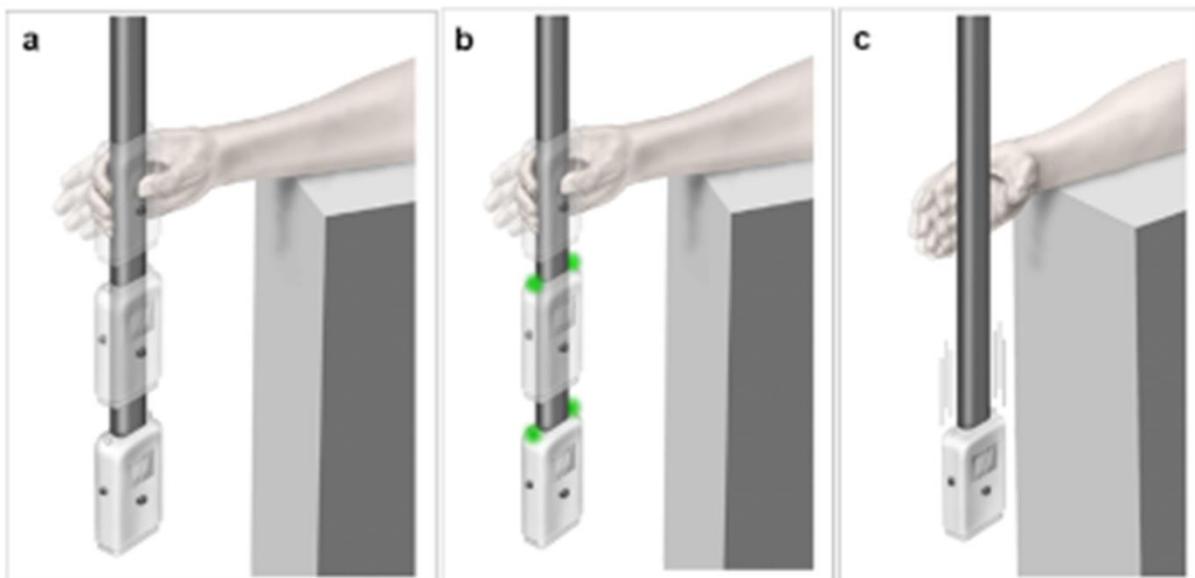
### 【概要】

肝硬変患者は交通事故や転倒あるいはそれに伴う骨折などの不慮の事故が多いことが知られています。岐阜大学大学院医学系研究科 消化器内科学分野 三輪貴生医師らのグループは、肝硬変患者では外的刺激に対して瞬時に正確に動作する神経機能が低下していることを明らかにしました。

本研究では、肝硬変患者 160 名と肝硬変のないコントロール群 160 名を対象とし、米国で開発された「落ちてくる棒を掴むあるいはそのまま落とす」という単純な動作を用いたデバイス (ReacStick) を用いて、外的刺激から 0.4 秒以内の反応速度と正確性を調査しました。その結果、肝硬変患者では肝硬変のないコントロール群と比較して有意に反応速度および反応の正確性が低下していることが示されました。外的刺激に対する反応速度や正確性は、従来測定方法がないため十分に調査されていませんでした。ReacStick を用いた本研究の結果により、肝硬変患者においては外的刺激に対する反応速度と反応の正確性の低下が明らかとなり、本研究結果は世界に類を見ない貴重な研究成果となりました。また、肝硬変患者の神経機能検査法である ReacStick とナンバーコネクションテスト B(numberconnection test-B : NCT-B)を比較してどちらが肝硬変患者を特徴づけるのに有用かを検討しました。その結果、ReacStick で測定した反応速度は NCT-B よりも肝硬変患者の神経機能を捉えていることが明らかとなり、ReacStick は NCT-B よりも肝硬変患者の神経機能を捉えるのに優れたデバイスである可能性が示唆されました。

三輪医師らの研究により肝硬変患者は外的刺激に対する反応速度や反応の正確性が低下していることが明らかとなりました。本研究成果は肝硬変患者における不慮の事故のリスク評価と健康寿命の延長に寄与することが期待されます。

本研究成果は、日本時間 2023 年 11 月 17 日に Geriatrics & Gerontology International誌で発表されました。



ReacStickによる短潜時神経機能の測定

## クリスマスツリー点灯式を開催

### 【概要】

令和5年11月27日（月）、病院1階イベントコーナーにおいて、クリスマスイルミネーションの点灯式を開催しました。

イベントコーナーには高さ3.5メートルのクリスマスツリー、中庭には可愛いサンタクロースや雪だるまの人形を設置し、訪れる皆さんに楽しんでいただけるようにイルミネーションを施しています。

点灯式では、病院長の挨拶に続き、さわやかサービス推進室長と会場に集まった皆さんでカウントダウンを行い、イルミネーションが一斉に点灯されました。

アンサンブル・ジョーカーレの皆さんによるコンサートも行われ、クリスマスソングや楽曲にまつわる素敵なお話を聴きながら、和やかなひとときを過ごしました。

クリスマスイルミネーションは来年1月中旬頃までお楽しみいただけますので、ぜひご覧ください。



点灯式の様子

## 能登半島地震被災地より 当院DMATの第1次隊が帰院

### 【概要】

令和6年1月1日（月）に発生した能登半島地震の被災地より、岐阜大学医学部附属病院DMAT（災害派遣医療チーム）の第1次隊が5日（金）夜に帰院しました。

同チームは、医師2名、看護師2名、業務調整員（薬剤師）1名で構成され、派遣要請を受けて2日（火）に出発し、公立能登総合病院、市立輪島病院等で医療活動を行ってきました。今回、5日早朝に出発したDMAT第2次隊が現地到着したことに伴い、引継ぎを終えて1次隊が帰院したものです。

### 【DMAT隊員からのコメント】

吉田（隆）医師：「先陣として、安全を担保しながら災害支援を行うことがいかに難しいことか、改めて感じました。被災された方々に寄り添うことは重要ですが、目前のことだけに捉われない、攻めの活動方針が、時には重要であると学びました。母校の後輩が必死に頑張っている姿には、感動させられました。」

福田（哲）医師：「被災地域に向かうことの危険性を感じずにはいられない派遣でした。また病院機能を地域に寄り添いながら維持することの大変さを痛感いたしました。」

白木看護師：「身の危険を感じる活動でした。災害看護の遂行の難しさを痛感いたしました。」

山岸看護師：「近隣組織との普段からの交流が、人や物がいない中での協働活動を支えていると、改めて感じる派遣でした。また、迅速かつ十分な活動の難しさを認識させられた4日間でした。」

鈴木業務調整員（薬剤師）：「被災者でありながら、病院機能を維持するために必死に仕事されている職員の方々をおいて、短期支援で戻ることには複雑な思いでした。また、被災者自らが復興をはじめている姿を目にして被災地域で生きることの厳しさを感じました。」

活動を終了したチーム員へは、病院長から労いの言葉が述べられました。  
岐阜大学医学部附属病院では、今後も引き続き支援を行っていく予定です。



5日夜、DMAT第1次隊が帰院



5日朝、DMAT第2次隊が出発

## 東海環状・飛騨医療ネットワーク協定締結式を実施

### 【概要】

岐阜大学医学部附属病院と岐阜・西濃医療センター西濃厚生病院、中部国際医療センター、高山赤十字病院は、令和6年1月31日（水）に「東海環状・飛騨医療ネットワークに関する協定」を締結しました。

本協定は、岐阜県に所在する東海環状自動車道沿道及び飛騨地域の急性期医療を担う病院が協力して、良質かつ高度な医療を効率的に提供できる医療体制を確保することを目指し、ネットワークを設立して検討を行い、地域医療の発展に寄与することを目的とするものです。

協定締結式にて、秋山病院長からは「4月から医師の働き方改革が始まり医師の勤務時間が制限されていく中、どのように地域医療を維持・継続していくかを議論するネットワークを構築することで、医療連携を密にし、これからの岐阜県の地域医療を支えていきたい」との挨拶が述べられました。

今後、当院はこれらの3病院とさらなる連携を深め、地域医療の活性化に貢献してまいります。



締結式の様子



集合写真

## 国立がん研究センターと教育・研究・医療等の 包括的連携協力に関する協定を締結

### 【概要】

本学は、令和6年2月27日（火）に国立がん研究センターと教育・研究・医療等の包括的連携協力に関する協定を締結しました。

本協定は、両機関の包括的な連携協力のもと、相互の機関の更なる発展を目指し、がん領域での教育・研究・医療活動の一層の充実と質の向上を図り、もって、学術及び医療の発展と有為な人材の育成に寄与することを目的とするものです。

協定締結式では、中釜国立がん研究センター理事長が「当センターが構築した基礎研究から臨床実装に至るシームレスな医療シーズ開発のプラットフォームと大規模な医療・オミックスデータ基盤を岐阜大学の研究者と共有することが可能となり、両組織の有する革新的なコンセプトに基づく多様な医療シーズの開発力強化と開発の加速において相乗的な効果が期待できる」と述べました。

吉田学長は「包括協定を締結することで、治験・臨床研究だけでなく、基礎研究から臨床応用までの過程で関係部局と連携・協力し、共同研究プログラム開発を推進することができるようになる。また、がん患者さんにより効果的な治療を提供するための多様な取り組みを展開し、新たな医療シーズの創出や開発に取り組むことが可能となる」と述べました。

今後、本学と国立がん研究センターは、本協定に基づき、教育・研究・医療等多方面で連携を進めていきます。



挨拶する吉田学長



協定書を持つ中釜国立がん研究センター理事長（左）と吉田学長

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/3/2	岐阜	がん医療向上へ連携 岐阜大と国立研究センターが協定 ～ 吉田和弘 学長 ～